

ご挨拶

会長 豊田 勝良

暖かい春の日差しを感じる頃となりました。町会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。日頃より町会運営、活動に対しましてご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

昨年秋頃からの行動制限撤廃により、どうにか下半期の町会活動、防災訓練、バス旅行、役員による外環トンネルの見学会を実施でき、コロナ禍の中、本年度の町会活動は無事終わりました。来年度はコロナ感染に十分に気を付けながら、コロナ以前の町会活動に戻りますよう役員一同努力していきたいと思ひます。

13日からマスク着用は個人判断になりました。ニュースを聞いていると80%の人がマスクを付けると答えているそうです。お互いに相手を思いやる気持ちを持って、日々の生活を送っていく。日本人の優しさですね。新年度の町会活動、運営もそんな気持ちを持ち実施していきたいと思ひます。これからもよろしくお願ひいたします。

石神町会総会のご案内

令和5年度の石神町会総会を開催いたします。令和4年度の町会活動報告と令和5年度の活動計画について協議します。

開催日時：令和5年5月20日(土) 13時～

開催場所：石神井庁舎 5階

参加自由ですので、ぜひご参加ください。



第4回 歩く会「外環トンネル掘削工事見学会」

コロナでなかなか開催できなかった「歩く会」を久しぶりに開催します。

今回は「東京外環プロジェクト」のトンネル掘削工事の見学をします。開通したら歩けないところです。日本の土木工事の最先端を見ませんか？

日時：4月16日(日) 13時 みんなの広場 集合

行程：みんなの広場→外環工事見学(約90分)→みんなの広場(16:00予定)

会費：100円(保険料)

定員：20名(定員に達しましたら締め切ります)

注意：工事現場内、階段等があります。現場までの距離もありますので自力で全行程歩ける方の参加をお願いします。申し込みは各支部長又は気楽な家まで

各部のお知らせ

文化交流部

第27回石神町会文化展開催のお知らせ

展示期間：5月26日（金）～28日（日）

場所：練馬区立男女共同参画センター えーる 3階ホール
地域の方々の作品を展示します。ぜひご覧ください。

【作品募集】

文化展では会員の皆様の写真・絵画・折り紙・手芸・生け花等展示する作品を募集しています。皆様の作品を地域の皆さんに発表しませんか？

申し込み・問い合わせ：5月20日まで

気楽な家（TEL5393-1023）

※お申し込みの際に応募要項をご理解の上、お申し込みをお願いします。



地域福祉部

第11回民生委員・町会連絡会の開催について

3月8日（水）石神井庁舎にて第11回目の民生委員と町会の連絡会を行いました。石神町会を担当する民生委員は7名で、そのうち4名が退任し、3名が新しい委員となり、1名が欠員となりました。また石神井地域包括支援センターのセンター長も昨年交代したため、新しいメンバーの顔合わせもかねての連絡会でした。

石神町会では、災害時の避難行動要支援者に対して、民生委員と連携して支援を行う体制をとっています。町会の会員である要支援者に対しては、所属している班の班長を中心とした近隣の会員が安否確認と必要な支援を行い、会員でない要支援者にはその地域を担当する民生委員が支援するという連携体制です。

区が作る要支援者名簿は毎年春に更新され、町会の班長も春に交代するので、町会では毎年9月1日の防災の日をめぐり、要支援者の状況（実際に町会の区域に居住しているか否か等）を確認し、その人の支援を行う担当者の更新を行っています。その後民生委員と町会の連絡会で連携体制の更新を行うこととなります。

連絡会では、石神井地域包括支援センターからのお知らせ、石神井障害者地域生活支援センターういんぐからのお知らせ、町会からの情報提供・近況報告、民生委員からの情報提供・近況報告も行われ、民生委員と町会の新しい連携方策についても意見交換されました。

町会活動について

渡辺 桂子

長らく町会活動をされてきた渡辺桂子さんがおやめになりました。昭和9年生まれで89才になり、今年3月迄町会のリサイクル部長だった渡辺さん。町会役員の中なかでは最長老ですが、今月で役員を辞められます。機会に恵まれれば、コロナ以前は登っていた富士山に今年も行きたいというまだまだお元気な渡辺さんに町会との関わりを伺いました。

結婚して今のお住まいに転居。当時は新たに住む人は町会に入るのは当たり前で、夫婦で町会員となった。昭和57年に、当時の豊田三郎会長が、町会に婦人部を立ち上げ、誘われてこの部に参加。8年後に3代目の婦人部部长になった。活動内容は、年2回のバス旅行と年1回の文化展。文化展は今と違い、子供の参加はなく大人だけの行事だった。婦人部はその後に名称変更して、今の文化部になり、子供も参加するようになった。

平成3年に、区が試験的に瓶・缶の回収を地域にさせることになり、区から町会が依頼された。町会がこれに対応してリサイクル部を作り、これの初代部長となった。町の中に回収ステーションを作り、会員が自宅で出た瓶・缶をそこに置き、その回収を業者に依頼した。途中から回収対象が変わり、今のような古紙などのリサイクル品となった。今は、回収業者は回収した結果を毎回リサイクル部に文書で報告。それを町会が区に提出し、区からキロ6円の補助が町会に出ている。

町会活動をして良かったと思うことは、町会活動に来る人は、年齢も様々で職歴も経験も違うので、柔軟な思考で付き合わないとう滑な活動が出来ない。そういう力を養うのに大いに役立って、これがボケを遅らしていると思う。又活動を通じて、地域の人とつながり、一緒にやり、手伝ってもらうことで、深く地域とつながった。町会に入ることは、人とつながることと実感した。活動をして地域の特性が良く判り、地域とつながる事の大事さも判った。第2第3の人生の場として、ぜひ町会活動に参加して、存分に楽しんで頂きたい。

声も大きく、握る力もまだ若者ようで強く、引っ込み思案になりがちな高齢者には頼もしい先達者の渡辺さんでした。

支部長体験記

前14支部長 今村 孝

2018年の一の酉で八方監査役より声をかけられた。翌週、監査役と豊田会長が来て「14支部長が病気で、代わってほしい」と言う。当時77歳。会社役員や俳句会の会長、代表、幹事など多忙の中、地域のためと引き受けた。だが回覧物の作り方も各班長への回し方もわからず役員の方々にもいろいろと教えていただいた。難問は臨時の回覧物だった。届いた順に渡せば「何度も回すな。商店街は忙しい。」とお叱りを受け、月2回厳守とした。さらなる難問は町会費の徴収。「領収書がない」とのクレームに、班ごとのB5封筒に名簿と領収書を入れ班長に徴収を依頼した。班に属さない5名は個別に対応した。徴収が終わればホッとした。「町会加入は義務？回覧は見ず捨てている。」と退会者もいた。会員の訃報は、すぐ分かる場合と暫く経ってから分かる場合があり、都度対応した。



会費の徴収、駅前清掃、国勢調査などでは家族の協力を助けられた。今年2月で83歳になるので新しい支部長に交代していただいた。総括すると、回覧98回、入会者は2名、退会者が13名、内死亡者5名だった。

貴重な体験だった。町会の活動を具体的に知った事、班長や役員の方々とのこの街について語りあえた事など地域をより深く知った。これまでご協力いただいた皆さん、有難うございました。

地域情報

石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ

石神町会のみなさま、こんにちは！地域生活支援センターういんぐです。

「ういんぐ」は、障害のある人たちやその家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活が送れるように一緒に考え、サポートするところです。地域生活を豊かにするプログラムを行っています。今回は、その中の1つである「きれいにし隊！花組」を紹介させていただきます。



花組では、ういんぐの外にある花壇の植え替えや水やり、雑草取り等をメンバーやボランティアと一緒にを行っています。昨年11月に植えたお花が今では沢山咲き、彩り豊かな花壇となりました。ういんぐや石神井保健相談所へお越しの際は花壇の様子を是非ご覧ください。

今後も地域で障害のある方もない方も豊かに過ごせるよう、地域住民のみなさんとともに、障害や地域福祉の理解を深める活動を行っていきたいと思います。ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。



<練馬区環境清掃推進連絡会 令和4年度研修会報告>

上記の研修会を3月13日に練馬区役所で開催。練馬区の町会、自治会の会員が参加。講師は一条美智子さん。テーマは、「家庭でできる省エネのコツかしく暮らして すてきにエコ」

日本の年平均気温は過去100年で1.28度。東京では3.3度上がっている。21世紀末には世界の平均気温は最大5.7度上がる可能性がある。気温が4度上がれば、19世紀後半と比べ異常気象の、熱波は9.4倍、大雨は2.7倍、干ばつは4.1倍に増えるそうです。

この温暖化は炭酸ガスの増加が原因とみられ、その排出量を削減することが求められています。それに応じて、東京は削減目標を、2030年までに2000年比で50%減と設定。しかし、現実には2020年の東京の炭酸ガス排出量は、2000年と比較すると、産業部門では、48.2%減ったが、家庭部門では32.9%増加しました。家庭部門を削減する為に我々が出来ることは、各電化製品に応じた細かいいろいろな省エネの工夫と大きく削減するには、○照明器具と冷蔵庫を最新の省エネタイプに替える。○家庭でエネルギー消費が大きい給湯を、量と温度を少なめにとることであります。

東京都では、電気を使う量を、H減らす。太陽光パネルで発電して電気を、T創る。蓄電池を利用して電気を、T蓄める。このキャッチフレーズHTTの拡大を目ざしており、太陽光パネル設置の補助、省エネ器具の買い替えに商品券などを配布するなどの、政策を区も進めているそうです。